

産学試作プロジェクト 多彩に

取り組みの半分、助成金活用

川崎産業振興財団

大学ニーズと中小企業の技術をマッチングさせる、川崎産業振興財団の「試作プロジェクト」が多様な形で発展してきた。おもな取り組み21件の約半分は、助成金を活用した本格的な産学共同研究などで進行中だ。参加機関もコアメンバー以外や他地域、複数機関グループでの取り組みなど幅が広がっている。一方、実用化は理科教材の2件で、簡単に試作から製品化につながらない難しさも見えつつある。

試作プロジェクトは大
学教員の理論実証や本格
開発に向けた試作を、大
学のニーズと研究費で中
小企業が担う契約だ。21
社・28大学のコアメンバ

1間のマッチングが難し
い場合は、財団がほかの
機関にも声をかけて担い
手を確保している。
例えばケロイド評価装
置を開発中の、肌診断の

日本システム研究所はコ
アメンバーではない。手
術の後のケロイドの直り
具合を光学的に見る装置
を、日本医科大学武蔵小
杉病院と連携し助成金に
て開発を進めている。
さらに日本医大はベン
チャーのメデイサイエン
ス・エスポアとも協力

し、薬剤封入のリポソームによるケロイド治療法にも取り組む。このため財団も、薬事法対応など従来と違う支援を検討し始めた。

福島電機は太陽光発電・充電の仕組みの工業高校や大学向けの学習キットを実用化した。これは太陽光を常に効率活用するための最大電力点追従制御システムを、東京工

芸大学の教員の理論で試作したのがきっかけだ。伊藤工業と東京都市大学による生理学学生実験

機器は、カエルの心臓や筋肉の反応を観察する教材で数千円を販売済み。しかし、試作プロを20

04年に始めた21件出
実用化は2件だけだ。